

民報あばしり

NO.952

2014・1・12

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三三・四四五八
F 四三三・四四五七

35年間続く 元旦街頭宣伝

市議団が年頭の訴え

日本共産党網走市議団の飯田敏勝、松浦敏司の両議員は、昨年とは打って変わった雪の少ない正月の穏やかな天候の中、元旦午前9時30分から宣伝カーで市内全域をまわりながら、街頭演説を行いました。両議員は、昨年夏に行われた参議院選挙での躍進のお礼を述べるとともに、安倍政権の危険性を訴えました。

こうした中、臨時国会で、戦前の国民弾圧として悪名高い治安維持法の再来といわれる秘密保護法案を8割に及ぶ多くの国民の反対を多数の力で押し切り、さらに積極的平和主義の名のもと、国家安全保障戦略で「海外で戦争する国」の青写真を閣議決定しました。極め付きは、12月26日に過去の日本軍国主義による侵略戦争を正当化する靖国神社参拝という暴挙に打ってでたことは、世界中からの批判と失望に包まれました。

さらに、翌27日には沖縄県の仲井真知事に強力な外圧をかけて、安倍政権が申請していた名護市辺野古への新基地建設するための埋め立て承認を表明させました。

「衆参両院で過半数を占めて引き続き政権を担当した安倍自公政権が、あらゆる分野で暴走を開始し、アベノミクスの名のもと、国民犠牲・大企業応援の政治、原発推進、国を売り渡すTPPの推進、沖縄新基地建設のこり押し、憲法改定にむけた動きなど、国政の全分野での逆流がつくりました。」



まさに安倍政権の暴走で年が明けましたが、安倍政権は、国会での議席は多数でも、国民の中では少数派で、国民の願いに反する暴走に未来はありません。日本共産党は、国民の皆さんと手を取り合って、安倍暴走政権に大反撃していきまします。ご一緒に頑張りましょう」と訴えました。



いよいよ東奔西走

新年明けましておめでとうございます。安倍政権の暴走は、年末に秘密保護法案の強行採決での成立、靖国神社への参拝強行、沖縄県知事へのアメとムチでの懐柔で公約違反の軍事基地の県内移設をゴリ押しさせるなど暴走は止まるところを知りません。

国民の暮らしはというと、来年の政府予算案は、「アベノミクス」なる政策の正体を浮き彫りにするものになりました。4月から消費税増税は8兆円の負担増が襲いかかります。社会保障では、年金、生活保護費の削減に加えて、お年寄りの医療費の窓口負担増など、あらゆる分野で手当たり次第切り捨てが待っています。

その一方で、大企業には、復興法人税の廃止など大減税をばらまき、国土強靱化の名のもと、大型公共事業への税金のバラマキは目に余り、軍事費は2年連続の増額です。あまりの逆立ちぶりにメディアからも「家計に増す重圧、優遇策は企業偏重（毎日）」と批判が出ました。私たちは、暴走からの防波堤として頑張る決意を元旦の街頭演説で固めました。今年もよろしくお祈いします。

松浦敏司の奮闘メモ

読者のみなさん、新年明けましておめでとうございます。今年、昨年と違い、雪も少なく、まずまずのお走がとまりません。年末の26日に、あの靖国神社に公式参拝をしました。靖国神社は、戦争中は、国民を戦争に動員する道具となった神社です。現在も、過去の日本軍国主義による侵略戦争を「自存自衛の正義の戦い」「アジア開放の戦争」と美化し、宣伝することを存在意義とする特殊な神社です。安倍首相は、「不戦の誓いをした」と言っていますが、「不戦の誓い」に最もふさわしくないので靖国神社です。当然のごとく、侵略された中国、韓国の両政府から厳しい批判はもとより、アメリカ政府からも「失望」したとの異例の批判を受けました。

さらに、沖縄県民の総意を踏みにじり、辺野古に新基地建設を沖縄振興費など「札束」の力で、強引に埋め立てを承認させました。これらの暴走にストップをかける戦いが今年です。

流水

▼中高生に国語を教え達している友人から、生徒が本になつたので、と送られてきた「りかちゃん」の国語科通信（梨の木舎）▼「まあ、考えてもごらんなさい。例えば、皆さんの校則、それも処罰を伴うそれに『その他』が連発されていたら...。ex 染髪その他...、高校生としてふさわしくない行為その他...」が認められた場合は、自宅謹慎その他...の処分を受けるものとする。グレーゾーンだらけの法律ってどうよ。」てな具合。通信の末尾には「あなた方は次の国政選挙の時は有権者でしょ。関係ないってひとまかせにしていても、決まったことに縛られるんだからね、全員」とも。「特定秘密保護法案」を話題にした通信だ。▼年の暮れ、「特定秘密保護法案」は強行採決されるわ、セツトでNSC設置法も強行されて戦争司令官が発足するわ、どこぞの首相は靖国参拝するわ、集団的自衛権の行使やら憲法改悪企んでるわ、その首相をNHKニュースはこれでもかと30分枠に出すわ出すわ、たれ流し！でうんざりしていた時だった。

▼通信を読んで、そうだ「今いる場所」「できることを」やらなくちゃ！と励まされていた。同時に、昨夏来網した『9条の会』の小森陽一氏の言葉を噛みしめる。「世論というのは抽象的なものではない。私たちが声を出して言うことは将来の変化につながる、つまりもう「世論」の一部、なんだよね。「秘密保護法！すっごくまずいっしょ」「原発？いらぬいばさ！」「憲法改悪？サイアク！」（た）